

RosettaNet

HTTP Client V1.3

使用手引書

商標について

- ・ **Java** およびその他の **Java** を含む商標は、米国 **Sun Microsystems, Inc** の米国およびその他の国における商標です。
- ・ この製品にはアパッチ・ソフトウェア財団(<http://www.apache.org/>)によって開発されたソフトウェアが含まれます。
- ・ この製品には RSA データセキュリティ株式会社によって開発されたソフトウェアが含まれます。

目次

1.	動作概要	1
2.	ディレクトリ／ファイル構成	2
2.1	WINDOWS 版ディレクトリ／ファイル構成	2
2.2	SOLARIS 版ディレクトリ／ファイル構成.....	4
3.	ファイル仕様	6
3.1	環境設定ファイル.....	6
3.2	送信伝票ファイル.....	8
3.3	送信添付ファイル.....	8
3.4	受信伝票ファイル.....	8
3.5	受信添付ファイル.....	8
3.6	受信中ファイル	9
3.7	シーケンス番号ファイル	9
3.8	メッセージファイル	10
3.9	ログ定義ファイル.....	10
3.10	ログファイル.....	11
4.	起動インターフェース	16
4.1	送信・受信・再受信起動インタフェース	16
4.2	ログ情報参照起動インタフェース	17
4.3	ログ削除処理起動インタフェース	18
5.	実行手順	19
5.1	実行までの準備	19
5.2	送信処理	19
5.3	受信処理	20
5.4	再受信処理.....	20
5.5	ログ情報参照処理.....	21
5.6	ログ削除処理.....	21
6.	運用上の注意	22
6.1	2重起動	22
6.2	受信中ファイルの扱い.....	22
6.3	自動で削除されないデータ.....	22
6.4	定義ファイルのバックアップ	22
6.5	集配信が出来なくなったら.....	22

6.6	サポート窓口への問い合わせ	23
7.	メッセージ一覧	25
8.	サーバステータス一覧.....	37
8.1	送信	37
8.2	受信	40
8.3	再受信.....	44
付録	HTTP ファイル転送におけるタイムアウト/トライ時間設定.....	46

1. 動作概要

ProcureMART HTTPclient (RosettaNet 対応版) は、ProcureMART の HTTP サーバと HTTP プロトコルによりファイル転送を行う専用アプリケーションであり、ProcureMART 加入者へ無償で配布されます。

以下に HTTPclient システムの概要図を示します。

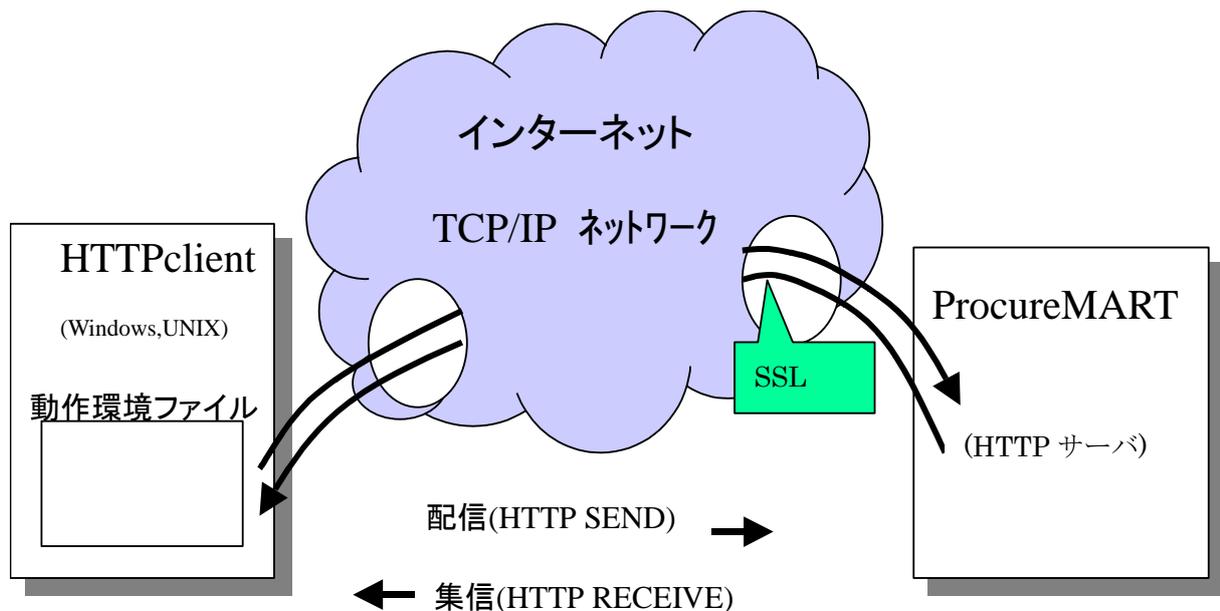


図 1 HTTPclient システム概要図

図 1 で示されるように HTTPclient は ProcureMART の HTTP サーバとの間で HTTP プロトコル通信を行い、利用者にファイルの集配信機能を提供します。

また、HTTPclient では、SSL (Secure Socket Layer) による暗号化通信をサポートします。本機能により、インターネット上においてもセキュリティの高い通信を実現することができます。

HTTPclient では上記の機能を利用し、大きく分けて以下のような流れの処理を行います。

1) HTTPclient の動作定義の取り込み

動作環境ファイルを読み込み、定義情報の取り込みを行います。

定義情報に従い、HTTPclient は動作します。

2) 集配信処理の実行

以下のファイル転送を実行します。

- ・ ProcureMART の HTTP サーバへ配信ファイルを送信する。
- ・ ProcureMART の HTTP サーバから集信ファイルを受信する。
- ・ ProcureMART の HTTP サーバから集信ファイルを再受信する。

本書では、HTTPclient を利用するにあたり、使用手順およびその他仕様について説明します。

2. ディレクトリ／ファイル構成

2.1 Windows 版ディレクトリ／ファイル構成

2.1.1 セットアップディレクトリ／ファイル構成

(BASEDIR)¥ProcureMART¥
RNHTTPClient.zip¥
ルファイル : RNHttpClient ディレクトリ : RNHttpClient インストー

2.1.2 「ProcureMART HTTPClient」のディレクトリ／ファイル構成

(BASEDIR)¥lib¥
MimePackaging.jar : ライブラリ格納ディレクトリ
activation.jar : MIME パック API ライブラリ
commons-beanutils.jar : JAF (マルチパート MIME 対応ライブラリ)
commons-collections.jar : XPath 用 SAX パーサーコアライブラリ
commons-digester.jar : XPath 用 SAX パーサーコアライブラリ
commons-jxpath-1.1.jar : XPath 用 SAX パーサーコアライブラリ
commons-logging-api.jar : XPath 用 SAX パーサーコアライブラリ
commons-logging.jar : XPath 用 SAX パーサーコアライブラリ
crimson.jar : XML DOM ライブラリ
log4j.jar : ログ出力ライブラリ
mail.jar : JavaMail ライブラリ (MIME メッセージ操作で使用)
procure-commons.jar : XPath 用 SAX パーサーライブラリ
procure.jar : ログ出力ライブラリ (ProcureMART フォーマット)
PmarCL.jar : ProcureMART HTTP Client ライブラリ
RNHTTPClient.jar : RosettaNet HTTP Client ライブラリ
etc¥ : 環境ファイル格納ディレクトリ
PmartClient.seq : シーケンス番号ファイル
config.txt : 環境設定ファイル (サンプル)
MSGFILE.txt : メッセージファイル
PmartClient.properties : ログ定義ファイル
dtd¥ : RosettaNet 提供 DTD
RNDT¥ : RosettaNet 提供 DTD
src¥ : ソースプログラム格納ディレクトリ
doc¥ : JavaDoc ディレクトリ
snd¥ : 送信ファイル格納ディレクトリ
sndback¥ : 送信済ファイル格納ディレクトリ

sndwork¥	: 送達確認待ちファイル格納ディレクトリ
rcv¥	: 受信ファイル格納ディレクトリ
rcm¥	: 再受信ファイル格納ディレクトリ
rcvback¥	: 受信ファイルバックアップディレクトリ
rcverr¥	: 受信ファイルエラーディレクトリ
SndFileBack¥	: 送信済み伝票ファイルディレクトリ
SndAttachBack¥	: 送信済み添付ファイルディレクトリ
SndFileWork¥	: 集約済み伝票ファイル格納ディレクトリ
SndAttachWork¥	: 集約済み添付ファイル格納ディレクトリ
log¥	: ログ格納ディレクトリ
PmartClient.log	: ログファイル
log¥	: ログ格納ディレクトリ
SENDFILE¥	: 送信伝票ファイル格納ディレクトリ
SENDATTACH¥	: 送信添付ファイル格納ディレクトリ
RCVFILE¥	: 受信伝票ファイル格納ディレクトリ
RCVATTACH¥	: 受信添付ファイル格納ディレクトリ

※BASEDIR : 提供媒体を展開したディレクトリ

※SENDFILE : 「環境設定ファイル」で指定した送信伝票ファイル格納ディレクトリ

※SENDATTACH : 「環境設定ファイル」で指定した送信添付ファイル格納ディレクトリ

※RCVFILE : 「環境設定ファイル」で指定した受信伝票ファイル格納ディレクトリ

※RCVATTACH : 「環境設定ファイル」で指定した受信添付ファイル格納ディレクトリ

2.2 Solaris 版ディレクトリ／ファイル構成

(BASEDIR)¥lib¥	: ライブラリ格納ディレクトリ
MimePackaging.jar	: MIME パック API ライブラリ
activation.jar	: JAF (マルチパート MIME 対応ライブラリ)
commons-beanutils.jar	: XPath 用 SAX パーサーコアライブラリ
commons-collections.jar	: XPath 用 SAX パーサーコアライブラリ
commons-digester.jar	: XPath 用 SAX パーサーコアライブラリ
commons-jxpath-1.1.jar	: JXPath 用 SAX パーサーコアライブラリ
commons-logging-api.jar	: XPath 用 SAX パーサーコアライブラリ
commons-logging.jar	: XPath 用 SAX パーサーコアライブラリ
crimson.jar	: XML DOM ライブラリ
log4j.jar	: ログ出力ライブラリ
mail.jar	: JavaMail ライブラリ (MIME メッセージ操作で使用)
procure-commons.jar	: XPath 用 SAX パーサーライブラリ
procure.jar	: ログ出力ライブラリ (ProcureMART フォーマット)
PmarCL.jar	: ProcureMART HTTP Client ライブラリ
RNHTTPClient.jar	: RosettaNet HTTP Client ライブラリ
etc¥	: 環境ファイル格納ディレクトリ
PmartClient.seq	: シーケンス番号ファイル
config.txt	: 環境設定ファイル (サンプル)
MSGFILE.txt	: メッセージファイル
PmartClient.properties	: ログ定義ファイル
dtd¥	: RosettaNet 提供 DTD
RNDT¥	: RosettaNet 提供 DTD
src¥	: ソースプログラム格納ディレクトリ
doc¥	: JavaDoc ディレクトリ
snd¥	: 送信ファイル格納ディレクトリ
sndback¥	: 送信済ファイル格納ディレクトリ
sndwork¥	: 送達確認待ちファイル格納ディレクトリ
rcv¥	: 受信ファイル格納ディレクトリ
rcm¥	: 再受信ファイル格納ディレクトリ
rcvback¥	: 受信ファイルバックアップディレクトリ
rcverr¥	: 受信ファイルエラーディレクトリ
SndFileBack¥	: 送信済み伝票ファイルディレクトリ
SndAttachBack¥	: 送信済み添付ファイルディレクトリ

SndFileWork¥	: 集約済み伝票ファイル格納ディレクトリ
SndAttachWork¥	: 集約済み添付ファイルディレクトリ
log¥	: ログ格納ディレクトリ
PmartClient.log	: ログファイル
log¥	: ログ格納ディレクトリ
SENDFILE¥	: 送信伝票ファイル格納ディレクトリ
SENDATTACH¥	: 送信添付ファイル格納ディレクトリ
RECVFILE¥	: 受信伝票ファイル格納ディレクトリ
RECVATTACH¥	: 受信添付ファイル格納ディレクトリ

※BASEDIR : 提供媒体を展開したディレクトリ

※SENDFILE : 「環境設定ファイル」で指定した送信伝票ファイル格納ディレクトリ

※SENDATTACH : 「環境設定ファイル」で指定した送信添付ファイル格納ディレクトリ

※RECVFILE : 「環境設定ファイル」で指定した受信伝票ファイル格納ディレクトリ

※RECVATTACH : 「環境設定ファイル」で指定した受信添付ファイル格納ディレクトリ

3. ファイル仕様

「ProcureMART HTTPclient」で使用するファイルの仕様について示します。

3.1 環境設定ファイル

HTTPclient の動作環境を定義するファイルです。

集配信を開始する前に必ずセットアップが必要です。

ファイル名 : 任意。

フォーマット : 「パラメータ名=値」

先頭が“#”で始まる行はコメント行とみなします。

パラメータ名は以下の 12 種類に固定となっています。

- ・HOST HTTP サーバのホスト名(または IP アドレス)
- ・PORT 通信ポート番号
- ・BASEURI HTTP サーバの URI を記述。
- ・USERID ユーザ認証用ユーザ ID
- ・PASSWD ユーザ認証用パスワード
- ・PROXYHOST プロキシサーバのホスト名 (オプション)
- ・PROXYPORT プロキシサーバの通信ポート番号(オプション)
- ・TIMEOUT サーバからの応答の待ち時間(分) ※1
- ・RETRY ProcureMART HTTPclient プログラムの内部リトライ回数
- ・RETRYTIME リトライが始まるまでの待ち時間(分) ※1
- ・BASEDIR HTTP クライアントのベースディレクトリを記述
(2章 ディレクトリ/ファイル構成参照)
- ・DATATYPE データの改行コード(LF: 0、CRLF: 1)※2
- ・SENDFILE: 送信伝票ファイル格納ディレクトリ
- ・SENDATTACH: 送信添付ファイル格納ディレクトリ
- ・RCVFILE: 受信伝票ファイル格納ディレクトリ
- ・RCVATTACH: 受信添付ファイル格納ディレクトリ
- ・EXIT01: 復帰値の旧版互換を設定する。(true:旧版互換)※3
- ・SENDCOLLECT: 送信集約有無フラグ※4

※1TIMEOUT の指定は、10 (10 分以上) を指定してください。詳細は、付録 HTTP
ファイル転送におけるタイムアウト/リトライ時間設定を参照。

※2 DATATYPE が 0 の場合

- ・送信、受信、再受信時とも改行コードの変換は行いません。

DATATYPE が 1 の場合

- ・送信: データ中の CRLF を LF に変換しながら送信します。

-
- ・ 受信、再受信：データ中の LF を CRLF に変換しながら受信します。

※3 EXIT01 が TRUE の場合

- ・ 終了ステータスが(0or1)となります。（旧版と互換）

EXIT01 が FALSE または、定義がない場合

- ・ 終了ステータスが(0or1or2)となります。

※4 SENDCOLLECT が TURE の場合

- ・ 送信時に伝票+添付を全て集約して送信します。

SENDCOLLECT が FALSE または、定義がない場合

- ・ 送信時に 1 伝票単位（伝票+添付）で送信します。

コード系 : プラットフォーム OS のコード系に準拠します。

格納ディレクトリ : etc ディレクトリ

例) 環境設定ファイルの記述例 (**WIndows 版 : プロキシなし**)

```
#ProcureMART HTTP Client Config File
HOST= filetrans.procuremart.ne.jp
PORT=443
BASEURI=http://filetrans.procuremart.ne.jp/servlet/
USERID=fujitsu
PASSWD=ProcureMART
#PROXYHOST=
#PROXYPORT=
TIMEOUT=10
RETRY=2
RETRYTIME=6
BASEDIR= C:¥¥ProcureMART
DATATYPE=0
SENDFILE=C:¥¥ProcureMART¥¥SendFile
SENDATTACH=C:¥¥ProcureMART¥¥SendAttach
RCVFILE=C:¥¥ProcureMART¥¥RecvFile
RCVATTACH=C:¥¥ProcureMART¥¥RecvAttach
SENDCOLLECT=false
```

例) 環境設定ファイルの記述例 (**Solaris 版 : プロキシあり**)

```
#ProcureMART HTTP Client Config File
HOST= filetrans.procuremart.ne.jp
PORT=443
BASEURI=https://filetrans.procuremart.ne.jp/servlet/
USERID=fujitsu
PASSWD=ProcureMART
PROXYHOST=proxy.xxx.co.jp
PROXYPORT=8080
TIMEOUT=10
RETRY=2
RETRYTIME=6
BASEDIR= /home/ProcureMART
DATATYPE=0
SNDFILE=/ProcureMART/SendFile
SNDATTACH=/ProcureMART/SendAttach
RCVFILE=C:¥ProcureMART¥RecvFile
RCVATTACH=C:¥ProcureMART¥RecvAttach
SENDCOLLECT=false
```

3.2 送信伝票ファイル

HTTPclientにて、ProcureMARTのHTTPサーバに送信する伝票ファイルです。

ファイル名 : ファイル識別名(8byte 固定)+英数字(MAX8byte)
例) 2A10S100XXXXXXXXX
フォーマット : 任意 (可変長可能)
登録申請にて指定したフォーマット (EDIFACT,CII,フラット等)
に従います。
コード系 : 任意。
ファイル識別名単位で規定するフォーマットに従います。
格納ディレクトリ : SENDFILE ディレクトリ

注意) 送信伝票ファイルのファイル名は、SENDFILE ディレクトリ配下、SndFileBack
ディレクトリは配下でユニークでなければなりません。

3.3 送信添付ファイル

HTTPclientにて、ProcureMARTのHTTPサーバに送信する添付ファイルです。

ファイル名 : 送信伝票に記述されているファイル名とします。
フォーマット : 任意
コード系 : 任意。
格納ディレクトリ : SENDATTACH ディレクトリ

3.4 受信伝票ファイル

HTTPclientにて、ProcureMARTのHTTPサーバから受信したファイルです。

ファイル名 : ファイル識別名(8byte 固定)+シーケンス番号(8byte) +通番(4byte)
例) 3A04R10000000001.0001
フォーマット : 任意 (可変長可能)
登録申請に従います。
コード系 : 任意。
ファイル識別名単位で規定するフォーマットに従います。
格納ディレクトリ : RECVFILE ディレクトリ

3.5 受信添付ファイル

HTTPclientにて、ProcureMARTのHTTPサーバから受信したファイルです。

ファイル名 : 受信伝票ファイルに記述されているファイル名とします。
フォーマット : 任意
コード系 : 任意。
格納ディレクトリ : RECVATTACH ディレクトリ

3.6 受信中ファイル

HTTPclient が、ProcureMART の HTTP サーバから受信する時のワークファイルです。
データ受信中ですので、本ファイルに対し、処理は実行しないで下さい。

ファイル名 : . +ファイル識別名(8byte 固定)
フォーマット : 受信ファイルと同じ
コード系 : 受信ファイルと同じ
格納ディレクトリ : rcv ディレクトリ (受信中ファイル)

3.7 シーケンス番号ファイル

ProcureMART の HTTP サーバは、ファイル識別子毎にシーケンス番号(通番)を管理し、ファイルの 2 重送信、2 重受信が発生しないよう制御しています。HTTPclient で、HTTP サーバの送信を管理するのがシーケンス番号ファイルです。正常に HTTPclient が処理されている場合、HTTP サーバと HTTPclient のシーケンス番号は同じとなります。

ファイル名 : PmartClient.seq
フォーマット : 「ファイル識別名=現在のシーケンス番号」
シーケンス番号は 8 桁の数字(ex. 00000001)
先頭が ”#” で始まる行はコメント行とみなします。
コード系 : プラットフォーム OS のコード系に準拠します。

例) シーケンス番号ファイルの内容 (通常時)

```
# ProcureMART Secuence File
FILEID01=00001000
FILEID02=00000001
```

例) シーケンス番号ファイルの記述例 (シーケンス番号が不明の場合)

```
# ProcureMART Secuence File
FILEID01=*
FILEID02=*
```

別マシンへの環境移行時や、シーケンス番号が不明の場合、
シーケンス番号に “*” (アスタリスク) を指定すると、通信終了時に
サーバ側で管理しているシーケンス番号が書き込まれます。

この手順は、リカバリ処理に位置付けられます。通常運用では、この手順を行わないでください。タイミングによっては、データの冗送、欠送が起こる可能性があります。

3.8 メッセージファイル

HTTPClient が出力するメッセージのマスタ情報です。

ファイル名 : MSGFILE.txt
フォーマット : 「メッセージ番号:メッセージ」
先頭が "#” で始まる行はコメント行とみなします。
コード系 : プラットフォーム OS のコード系に準拠します。
格納ディレクトリ : etc ディレクトリ

3.9 ログ定義ファイル

HTTPClient が出力するログファイルを指定します。

ファイル名 : PmartClient.properties
フォーマット : 「パラメータ名=設定値」
先頭が "#” で始まる行はコメント行とみなします。
• log4j.appender.R.File **BASEDIR** 部分に HTTP クライアントの
ベースディレクトリを記述
(「3.4 環境設定ファイル」の BASEDIR と同じ値)
※ 「log4j.appender.R.File」の行以外は修正する必要はありません。

例) ログ定義ファイルの記述例(Windows 版)

```
# PmartClient.properties
log4j.rootCategory=INFO, R
log4j.appender.R=org.apache.log4j.RollingFileAppender
log4j.appender.R.File=C:\¥¥ProcureMART¥¥log¥¥PmartClient.log
log4j.appender.R.layout=org.apache.log4j.PatternLayout
log4j.appender.R.layout.ConversionPattern=%d %m%n
```

コード系 : プラットフォーム OS のコード系に準拠します。
格納ディレクトリ : etc ディレクトリ

※ UNIX 環境の場合には、「¥¥」を「/」に読み替えてください。

3.10 ログファイル

ProcureMART HTTPclient プログラムが出力するログファイルについて説明します。

共通事項

ファイル名 : PmartClient.log

コード系 : プラットフォーム OS のコード系に準拠します。

格納ディレクトリ : log ディレクトリ

本ファイルは、ProcureMART HTTPclient プログラムの実行によりファイルが肥大していくため、不要なレコードを定期的に「ProcureMART LogDelete プログラム」で削除する必要があります。

3.10.1 通信トレースログ

ProcureMART HTTPclient プログラムと HTTP サーバ間の制御の応答を全て出力します。ファイル転送にてトラブルが発生した時の調査用ログとして使用します。

フォーマット

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
2003-07-18 09:06:01,932	[trc]			INFO : java -Xmx128M -Xms128M PmartClient			
F:¥RNHTTPClient¥etc¥config.txt snd	AAAAA						
2003-07-18 09:06:03,294	[trc]	AAAAA	00000136	SndFilChk		OK	
2003-07-18 09:06:24,965	[trc]	AAAAA	00000136	GET_SEQ		OK	
2003-07-18 09:06:39,646	[trc]	AAAAA	00000137	SEND	9135	OK	
2003-07-18 09:06:39,646	[trc]	AAAAA	00000137	SEND DID	00000a4b817a000017ff11a4b99a0130		

- | | |
|----------|---|
| ①発行日時 | ProcureMART HTTPclient が HTTP サーバにリクエストの発行した日時。年月日時分秒およびミリ秒で出力する。 |
| ②種別 | ログ種別。通信トレースログの種別は trc とする。 |
| ③ファイル識別子 | リクエストに対応するファイル識別子。 |
| ④シーケンス番号 | リクエストに対応するシーケンス番号。 |
| ⑤リクエスト | ProcureMART HTTPclient プログラムが HTTP サーバに対して発行したリクエスト。 |
| ⑥データサイズ | ProcureMART HTTPclient プログラムが HTTP サーバとの間で送受信した EDI データのサイズ。 |
| ⑦処理結果 | リクエストの実行結果。 |
| ⑧詳細コード | リクエストが失敗したときの ProcureMART HTTPclient プログラムの理由コード。 |

3.10.2 送信ログ

ProcureMART HTTPclient プログラムにより、正常に HTTP サーバへ送信されたファイルの状況を出力します。送信状況確認用として利用できます。

フォーマット

①	②	③	④	⑤
2003-07-17 14:37:15,011	[snd]	AAAAAAAAA00000001	00000136	9135
2003-07-18 09:06:25,196	[snd]	AAAAAAAAA00000002	00000137	9135

- ①送信日時 ProcureMART HTTPclient が HTTP サーバにデータを送信完了した日時。
- ②種別 ログ種別。送信ログの種別は `snd` とする。
- ③送信ファイル名 ProcureMART HTTPclient プログラムにて送信したファイル名 ("`snd`"ディレクトリに置いた時のファイル名)。
- ④シーケンス番号 送信に対し HTTP サーバにて割り振られたシーケンス番号。
- ⑤データサイズ ProcureMART HTTPclient プログラムが HTTP サーバへ送信した EDI データのサイズ。
同一ファイル識別子を持つファイルを同時に送信した場合は、その合計サイズが出力される。

3.10.3 受信ログ

ProcureMART HTTPclient プログラムにより、正常に HTTP サーバから受信されたファイルの状況を出力します。受信状況確認用として利用できます。

フォーマット

①	②	③	④	⑤
2001-04-18 10:00:00,000	[rcv]	BBBBBBBBB00000001	00000001	204800
2001-04-18 10:00:00,500	[rcv]	BBBBBBBBB00000002	00000002	304800

- ①受信日時 ProcureMART HTTPclient が HTTP サーバからデータを受信完了した日時。
- ②種別 ログ種別。受信ログの種別は `rcv` とする。
- ③受信ファイル名 ProcureMART HTTPclient プログラムが HTTP サーバから受信したファイル名 ("`rcv`"ディレクトリに置かれたファイル名)。
- ④シーケンス番号 受信に対し HTTP サーバにて割り振られたシーケンス番号。

-
- ⑤データサイズ ProcureMART HTTPclient プログラムが HTTP サーバから受信した EDI データのサイズ。

3.10.4 リトライログ

ProcureMART HTTPclient プログラムが、通信異常等により自動的にリトライ処理を実行した場合に出力します。リトライの状況が確認できます。

フォーマット

①	②	③	④	⑤
2001-04-18 10:00:00,000	[rty]	AAAAAAA	00000001	1
2001-04-18 10:00:10,000	[rty]	AAAAAAA	00000001	2

- ①リトライ日時 ProcureMART HTTPclient プログラムが内部リトライを実行した日時が出力される。
- ②種別 ログ種別。リトライログの種別は rty とする。
- ③ファイル識別子 リトライ対象となったファイル識別子。
- ④シーケンス番号 リトライ対象となったシーケンス番号。
- ⑤リトライ回数 ProcureMART HTTPclient プログラムが行ったリトライ回数。

3.10.5 リトライオーバーバログ

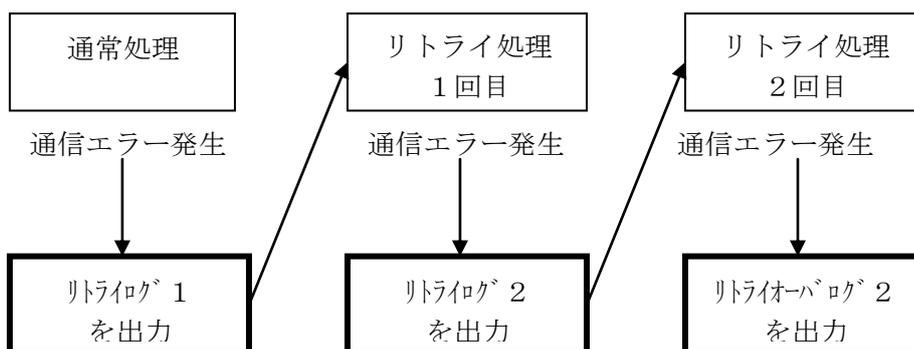
ProcureMART HTTPclient プログラムがリトライオーバーバとなった場合に出力します。
リトライオーバーバの発生状況が確認できます。

フォーマット

①	②	③
2001-04-18 10:00:00,000	[rto]	2

- ①リトライオーバーバ日時 ProcureMART HTTPclient プログラムにてリトライオーバーバが発生した日時を出力します。
- ②種別 ログ種別。リトライオーバーバログの種別は `rto` とする。
- ③リトライオーバーバ回数 リトライオーバーバとなったリトライ回数を出力します。

例) 「3.4 環境設定ファイル」で「`retry=2`」と指定した場合



3.10.6 異常復帰ログ

ProcureMART HTTPclient プログラムが異常終了した時に出力します。トラブル調査用のログとして使用します。

フォーマット

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
2001-04-17 19:00:00,000	[err]	AAAAAAAA	00000001	E00004	GET sequence error	(02451120)

- | | |
|----------|---|
| ①発生日時 | ProcureMART HTTPclient が異常復帰した日時。 |
| ②種別 | ログ種別。異常復帰の種別は err とする。 |
| ③ファイル識別子 | 異常復帰時に処理していたファイル識別子。 |
| ④シーケンス番号 | 異常復帰時に処理していたシーケンス番号。 |
| ⑤エラーコード | 異常復帰時のエラーコード。 |
| ⑥エラー内容 | 異常復帰の原因概要。 |
| ⑦詳細コード | 異常復帰時の ProcureMART HTTPclient プログラムの理由コード |

4. 起動インターフェース

4.1 送信・受信・再受信起動インタフェース

送信・受信・再受信の起動インタフェースを示します。

```
> java RNHTTPClient configfile snd|rcv|rcm fileid [sequence_no]
```

[パラメータ説明]

- **configfile** — 環境設定ファイル名 (フルパス)
環境設定ファイル名をフルパスで指定します。
環境設定ファイルの書式については、「3.4 環境設定ファイル」を参照して下さい。
- **snd|rcv** — 実行モード
RNHTTPClient の実行モードをいずれか指定します。
snd ... ファイル送信
rcv ... ファイル受信
- **fileid** — ファイル識別名
送受信を行うファイル識別名を指定します。(サポートセンタより提示されます。)
ファイル識別名は 8byte の英数字です。
- **sequence_no**
再受信を行うファイルのシーケンス番号を指定します。(実行モードが rcm 時のみ)
シーケンス番号は 8byte の数字です。

※大文字／小文字は区別されます。

※引数を省略してクライアントを実行すると、バージョン情報と使用方法が表示されます。

```
> java RNHTTPClient ←パラメータ無し
RosettaNet HTTP client version1.3 2005-08-12
Usage : java RNHTTPClient config snd|rcv fileid
        java RNHTTPClient config rcm fileid sequence_no
```

```
> java PmartClient ←パラメータ無し
ProcureMART HTTP client version2.0 2001-08-01
Usage : java PmartClient config snd|rcv fileid
        java PmartClient config rcm fileid sequence_no
```

4.2 ログ情報参照起動インタフェース

ログ情報参照の起動インタフェースを示します。

```
> java LogExtract configfile trc|snd|rcv|rcm|rty|rto|err [YYYY-mm-dd]
```

[パラメータ説明]

- **configfile** — 環境設定ファイル名 (フルパス)
環境設定ファイル名をフルパスで指定します。
環境設定ファイルの書式については、「3.4 環境設定ファイル」を参照して下さい。
- **trc|snd|rcv|rcm|rty|rto|err** — ログ種別
参照したいログのログ種別をいずれか指定します。
 - trc ・・・通信トレースログ
 - snd ・・・送信ログ
 - rcv ・・・受信ログ
 - rcm ・・・再受信ログ
 - rty ・・・リトライログ
 - rto ・・・リトライオーバーバログ
 - err ・・・異常復帰ログ
- **YYYY-mm-dd** — 日付(省略可)
参照したいログの日付を指定します。
 - YYYY ・・・西暦
 - mm ・・・月(01~12)
 - dd ・・・日(01~31)

- ※ 環境設定ファイル名、ログ種別は必須です。
- ※ 西暦と月、月と日の間には「-」（ハイフン）が入ります。
- ※ 日付を省略した場合は指定したログ種別のすべてのログ情報が出力されます。
- ※ 大文字／小文字は区別されます。
- ※ java LogExtract と引数を省略して実行すると、バージョン情報と使用方法が表示されます。

```
> java LogExtract
ProcureMART HTTP client version2.0 2001-08-01
Usage : java LogExtract configfile trc|snd|rcv|rcm|rty|rto|err [YYYY-mm-dd]
```

実行例) 2001-08-01 分の送信ログを出力

```
> java LogExtract c:\¥ProcureMART¥etc¥config.txt snd 2001-08-01
```

4.3 ログ削除処理起動インタフェース

ログ削除処理の起動インタフェースを示します。

```
> java LogDelete configfile YYYY-mm-dd
```

[パラメータ説明]

- **configfile** — 環境設定ファイル名（フルパス）
環境設定ファイル名をフルパスで指定します。
環境設定ファイルの書式については、「3.4 環境設定ファイル」を参照して下さい。
- **YYYY-mm-dd** — 日付
削除するログの日付を指定します。指定した日付を含む過去のログ情報が削除されます。
YYYY . . . 西暦
mm . . . 月 (01~12)
dd . . . 日 (01~31)

※ 環境設定ファイル名、日付は必須です。

※ 西暦と月、月と日の間には「-」（ハイフン）が入ります。

※ 大文字／小文字は区別されます。

※ java LogDelete 引数を省略して“LogDelete”実行すると、バージョン情報と使用方法が表示されます。

```
> java LogDelete
ProcureMART HTTP client version2.0 2001-08-01
Usage : java LogDelete configfile YYYY-mm-dd
```

5. 実行手順

送信・受信・再受信・ログ情報参照・ログ削除処理の実行手順について示します。

5.1 実行までの準備

①HTTPClient のインストール直後

HTTPClient を実行するまでに、以下の作業を完了しておく必要があります。

○環境設定ファイルの設定

環境設定ファイルの設定を行います。設定方法については、“3.1 環境設定ファイル”を参照して下さい。

○ログ定義ファイル設定

ログ定義ファイルの設定を実施します。設定方法については、“3.8 ログ定義ファイル”を参照して下さい。

②再インストール直後

HTTPClient 運用開始後に、再インストールを行う場合、インストール直後の作業に加え、サーバとの集配信ファイルの同期を合わせるための作業が発生します。

○環境設定ファイルの設定

○ログ定義ファイルの設定

○シーケンス番号の調整

HTTPClient の再インストール後は、シーケンス番号ファイルの内容を、再インストール前と同じにする必要があります。シーケンス番号ファイルをバックアップしておき、再インストール完了後に復元します。シーケンス番号ファイルが復元できない場合は、“3.6 シーケンス番号ファイル”の記述例（シーケンス番号が不明の場合）を参照し、シーケンス番号ファイルを作成して下さい。

5.2 送信処理

① 上位アプリケーションにより、送信伝票ファイルを作成し、HTTPClient の送信伝票ディレクトリ (SENDFIELD) に配置します。

② 上位アプリケーションにより、送信添付ファイルを作成し、HTTPClient の送信添付ディレクトリ (SENDATTACH) に配置します。

③ HTTPClient プログラムでファイルを送信します。

送信ファイルディレクトリ (SENDFIELD) 配下の指定した識別子名で始まるファイルとその添付ファイル (SENDATTACH 配下) を結合し、送信します。

送信ディレクトリ (SENDFIELD) に、同一識別子名の複数ファイル (先頭 8byte が同じ) が存在する場合、ファイル単位で送信されます。また、その送信順序は、ファイル名の昇順 (ASCII コード) で行われます。

送信ディレクトリ (SENDFIELD) に、複数のファイル識別名で始まるファイルが存在する場合、

ProcureMART HTTPclient 実行時に指定したファイル識別名のみが送信対象となります。
正常に HTTP サーバに送信された伝票ファイルは、SENDFIEL ディレクトリから SndFileBack
ディレクトリに移動されます。また、添付ファイルは、SENDATTACH ディレクトリから
SndAttachBack ディレクトリに移動されます。

実行例

送信ディレクトリ(SENDFILE)に” 2A100000000001”が存在する場合。

```
C:\>java RNHTTPClient C:\ProcureMART\etc\config.txt snd 2A100000  
C:\ProcureMART\snd\2A100000000001 sending ...  
INFO: ProcureMART HTTP client Normal End
```

5.3 受信処理

- ① ProcureMART HTTPclient プログラムでファイルを受信。
受信伝票ファイルは、RECVFIEL ディレクトリに、受信添付ファイルは、RECVATTACH ディ
レクトリに格納されます。
- ② 受信ファイルを、上位アプリケーションによって他業務システムに転送します。

実行例

```
C:\>java RNHTTPClient \ProcureMART\etc\config.txt rcv 2A050000  
C:\ProcureMART\rcv\2A05000000000001 receiving ...  
INFO: ProcureMART HTTP client Normal End
```

5.4 再受信処理

- ③ ProcureMART HTTPclient プログラムでファイルを再受信。
再受信伝票ファイルは、RECVFIEL ディレクトリに、再受信添付ファイルは、RECVATTACH
ディレクトリに格納されます。
- ④ 再受信ファイルを、上位アプリケーションによって他業務システムに転送します。

実行例

```
C:\>java RNHTTPClient \ProcureMART\etc\config.txt rcm 2A050000 00000001  
C:\ProcureMART\rcv\2A05000000000001 receiving ...  
INFO: ProcureMART HTTP client Normal End
```

5.5 ログ情報参照処理

① ProcureMART LogExtract プログラムでログ情報を参照。

(1) ログ種別のみ指定した場合は、指定したログ情報が画面に表示されます。

```
> java LogExtract C:\ProcureMART\etc\config.txt snd
start...
2001-07-31 10:05:04,979 [snd] 05020000 00000087 SEND 712 OK
2001-08-02 09:05:04,979 [snd] 05020000 00000088 SEND 356 OK
2001-08-03 11:05:04,979 [snd] 05020000 00000089 SEND 712 OK
INFO: ProcureMART LogExtract Normal End
```

(2) 日付を指定した場合は、該当日付のログ情報のみ画面に表示されます。

```
> java LogExtract C:\ProcureMART\etc\config.txt snd 2001-08-03
start...
2001-08-03 11:05:04,979 [snd] 05020000 00000089 SEND 712 OK
INFO: ProcureMART LogExtract Normal End
```

(3) ログ格納ファイル名が指定されている場合は、画面（標準出力）ではなくファイルに出力されます。

```
> java LogExtract C:\ProcureMART\etc\config.txt snd > C:\temp\sndlog.txt
INFO: ProcureMART LogExtract Normal End
```

5.6 ログ削除処理

① ProcureMART LogDelete プログラムでログファイルのログ情報を削除。

指定した日付以前のログ情報のみ削除されます。

実行例

```
> java LogDelete C:\ProcureMART\etc\config.txt 2001-07-31
delete...
INFO: ProcureMART LogDelete Normal End
```

6. 運用上の注意

6.1 2重起動

2重起動はしないで下さい。必ず、コマンドが復帰してから次のコマンドを実行して下さい。起動中の状態はログに出力されます。“5.4 ログ情報参照インタフェース”を参照して下さい。

6.2 受信中ファイルの扱い

受信中ファイルは、rcv(受信ファイル格納ディレクトリ)は以下に作成されます。

ファイル名： . +ファイル識別子 (詳細は、“3.5 受信中ファイル”を参照して下さい)

このファイルは、作業中のファイルですので、処理しないようにして下さい。

6.3 自動で削除されないデータ

自動的に削除されないデータがあります。定期的に削除するようにして下さい。

○送信済データ

SndFileBack, SndAttachBAK, sndback 内ファイルは、自動で削除されません。定期的に削除するようにして下さい。

○受信済データ

rcv 内ファイルは、自動で削除されません。定期的に削除するようにして下さい。

○ログ

ProcureMART クライアントのログは追加書きで出力されます。

“5.6 ログ削除処理”にて、定期的にログを削除するようにして下さい。

6.4 定義ファイルのバックアップ

HTTPClient の環境を容易に復元するために、定義ファイルのバックアップを作成します。

○インストール完了直後

- ・動作環境ファイル

○再インストール前

- ・動作環境ファイル
- ・シーケンス番号ファイル

6.5 集配信が出来なくなったら

○初めての起動で失敗する場合

- ・HTTPClient メッセージよりインストールおよび設定環境の見直しを実施して下さい。

○運用中に集配信できなくなった場合

- ・お客様側のネットワーク環境等に変更がないかご確認下さい。
- ・HTTPClient が出力するメッセージやログを参照し、原因を調査して下さい。

○再インストール後に集配信ができなくなった場合

-
- ・インストールおよび設定環境の見直しを実施して下さい。
 - ・シーケンス番号ファイルの調査を実施して下さい。

6.6 サポート窓口への問い合わせ

HTTPclient が起動できず、お客様に対処できない場合は、ご契約されたサポート窓口までご連絡(メール)下さい。その際、以下の内容をお知らせください。

①HTTPユーザID

お客様が使用されているHTTPユーザIDを明記して下さい。

②HTTPclient のバージョン

HTTPclient のバージョンを明記して下さい。

HTTPclient を引き数無しで実行すると表示されます。

[コマンド例]

```
> java RNHTTPClient ←パラメータ無し
RosettaNet HTTP client version 1.0 2003-07-01
Usage: java RNHTTPClient config snd | rev fileid
       java RNHTTPClient config rcm fileid sequence_no
```

③事象発生日時

事象が発生した日時を、明記して下さい。

④事象

発生事象を明記して下さい。

⑤出力メッセージ

コマンドの実行ラインと、出力されたメッセージを明記して下さい。

⑥ログ

調査用に、以下のログを出力し、内容を明記して下さい。

- ・通信トレースログ
- ・異常復帰ログ

ログ情報参照コマンドにて出力されます。

[コマンド例]

```
C:\> java RNHTTPClient C:\ProcureMARTY\etc\config.txt trc 05020000
C:\> java RNHTTPClient C:\ProcureMARTY\etc\config.txt err 05020000
```

⑦環境設定ファイル

環境に問題があるようであれば、環境設定ファイル内容も明記して下さい。

⑧シーケンス番号ファイル

集配信ができない場合は、シーケンス番号ファイルの内容も明記して下さい。

(調査依頼メール例)

ProcureMART サポートセンター宛

以下の調査をお願いします。

[ユーザ I D] : HTTP0001

[HTTPclient のバージョン] : ProcureMART HTTP client version2.0 2001-08-01

[事象発生日時] : 2001.08.20 13:00

[事象]

ファイルが受信できない。

[出力メッセージ]

```
C:\>java PmartClient ¥ProcureMART¥etc¥config.txt rev FILEID01
```

```
WARNING: Re-Receive data not found. (data expire, sequence number not found)
```

[ログ]

```
2001-08-20 13:00:00,000 [trc] FILEID01 00000001 GET_SEQ NG(02451250)
2001-08-20 13:00:00,000 [err] FILEID01 00000001 E00004 GET sequence error (02451120)
```

[環境設定ファイル]

```
#ProcureMART HTTP Client Config File
HOST= filetrans.procuremart.ne.jp
PORT=443
BASEURI=https://filetrans.procuremart.ne.jp/servlet/
USERID=fujitsu
PASSWD=ProcureMART
PROXYHOST=proxy.xxx.co.jp
PROXYPORT=8080
TIMEOUT=10
RETRY=2
RETRYTIME=6
BASEDIR= /home/ProcureMART
DATATYPE=0
```

[シーケンス番号ファイル]

```
# ProcureMART Secuence File
FILEID01=00001000
FILEID02=00000001
```

7. メッセージ一覧

「ProcureMART HTTPclient」の実行時に表示されるメッセージと、その時のシステムの処置、利用者の処置の一覧を示します。

メッセージ番号	I00000	メッセージ種別	INFO
メッセージ	INFO : ProcureMART HTTP client Normal End		
システムの処置	正常終了。		
利用者の処置			
メッセージ番号	I00001	メッセージ種別	INFO
メッセージ	ProcureMART HTTP client version2.0 2001-08-01 Usage : java PmartClient config snd rcv fileid java PmartClient cofig rcm fileid sequence_no		
システムの処置	処理を中止します。		
利用者の処置	実行パラメータを確認してください。		
メッセージ番号	I00002	メッセージ種別	INFO
メッセージ	INFO : Send File no exist		
システムの処置	処理を中止します。		
利用者の処置	送信ファイル格納ディレクトリ(snd)に、“fileid”に指定した文字列で始まるファイルが存在しているか確認してください。		
メッセージ番号	I00003	メッセージ種別	INFO
メッセージ	ProcureMART HTTP client version2.0 2001-08-01 Usage : java LogExtract config trc snd rcv rcm rty rto err [YYYY-mm-dd]		
システムの処置	処理を中止します。		
利用者の処置	実行パラメータを確認してください。		

メッセージ番号	I00004	メッセージ種別	INFO
メッセージ	ProcureMART HTTP client version2.0 2001-08-01 Usage : java LogDelete config YYYY-mm-dd		
システムの処置	処理を中止します。		
利用者の処置	実行パラメータを確認してください。		
メッセージ番号	I00005	メッセージ種別	INFO
メッセージ	INFO: ProcureMART LogDelete Normal End		
システムの処置	正常終了		
利用者の処置			
メッセージ番号	I00006	メッセージ種別	INFO
メッセージ	INFO: ProcureMART LogExtract Normal End		
システムの処置	正常終了		
利用者の処置			
メッセージ番号	I00007	メッセージ種別	INFO
メッセージ	INFO: move file from sndwork direcotry to sndback direcotry		
システムの処置	正常		
利用者の処置	sndwork ディレクトリ中のファイルを sndback ディレクトリに移動したことを示しています。(シーケンス番号が 1 つ遅れていた場合のみ)		
メッセージ番号	I00008	メッセージ種別	INFO
メッセージ	INFO: move tmprevfile to revfile		
システムの処置	正常		
利用者の処置	rev ディレクトリ中の".ファイル名"を"ファイル名"に移動したことを示しています。(シーケンス番号が 1 つ遅れていた場合のみ)		

メッセージ番号	W00001	メッセージ種別	WARNING
メッセージ	WARNING: Re-Receive data not found. (data expire, sequence number not found)		
システムの処置	処理を中止します。		
利用者の処置	シーケンス番号を確認してください。本メッセージが繰り返し表示される場合はデータの期限切れのため、指定したシーケンス番号のデータ取得はできません。		
メッセージ番号	W00002	メッセージ種別	WARNING
メッセージ	WARNING: SequenceNumber is 1 late.		
システムの処置	処理を中止します。		
利用者の処置	前回受信分を再受信手順(rcm)にて受信してください。		

メッセージ番号	E00001	メッセージ種別	ERROR
メッセージ			
ERROR : No such file			
システムの処置			
処理を中止します。			
利用者の処置			
環境設定ファイル格納ディレクトリ(etc)に、“config” に指定した環境設定ファイルが存在しているか確認してください。			
メッセージ番号	E00002	メッセージ種別	ERROR
メッセージ			
ERROR : Not numeral			
システムの処置			
処理を中止します。			
利用者の処置			
環境設定ファイル内の PORT または PROXYPORT に設定した値を確認してください。			
メッセージ番号	E00003	メッセージ種別	ERROR
メッセージ			
ERROR : Unknown protocol			
システムの処置			
処理を中止します。			
利用者の処置			
環境設定ファイル内の BASEURI に設定した値を確認してください。			
メッセージ番号	E00004	メッセージ種別	ERROR
メッセージ			
ERROR : Get Sequence ERROR			
システムの処置			
処理を中止します。			
利用者の処置			
本メッセージの前後に出力された“利用者の処置”に従って対処してください。			
メッセージ番号	E00005	メッセージ種別	ERROR
メッセージ			
ERROR : usrid,passwd cannot encode			
システムの処置			
処理を中止します。			
利用者の処置			
環境設定ファイル内の USRID,PASSWD に設定した値を確認してください。			

メッセージ番号	E00006	メッセージ種別	ERROR
メッセージ			
ERROR : HeaderInfo cannot get			
システムの処置			
処理を中止します。			
利用者の処置			
通信環境を確認して下さい。本メッセージが繰り返し表示される場合技術員に調査を依頼して下さい。			
メッセージ番号	E00007	メッセージ種別	ERROR
メッセージ			
ERROR : BodyInfo cannot get			
システムの処置			
処理を中止します。			
利用者の処置			
通信環境を確認して下さい。本メッセージが繰り返し表示される場合技術員に調査を依頼して下さい。			
メッセージ番号	E00008	メッセージ種別	ERROR
メッセージ			
ERROR : HTTP Server response message			
システムの処置			
処理を中止します。			
利用者の処置			
「7章 サーバステータス一覧」のステータスと一致する“クライアントの処置”の記述に従って対処してください。			
メッセージ番号	E00009	メッセージ種別	ERROR
メッセージ			
ERROR : Cookie(sessionID) cannot get			
システムの処置			
処理を中止します。			
利用者の処置			
通信環境を確認して下さい。本メッセージが繰り返し表示される場合技術員に調査を依頼して下さい			
メッセージ番号	E00010	メッセージ種別	ERROR
メッセージ			
ERROR : Cookie(sequence) cannot get			
システムの処置			
処理を中止します。			
利用者の処置			
通信環境を確認して下さい。本メッセージが繰り返し表示される場合技術員に調査を依頼して下さい			

メッセージ番号	E00011	メッセージ種別	ERROR
メッセージ			
ERROR : Sequence Number Error ...			
システムの処置			
処理を中止します。			
利用者の処置			
本メッセージの前後に出力された“利用者の処置”に従って対処してください。			
メッセージ番号	E00012	メッセージ種別	ERROR
メッセージ			
ERROR : Directory check error			
システムの処置			
処理を中止します。			
利用者の処置			
送信／受信ファイル格納ディレクトリ(snd,rcv,sndwork,rcm)が存在しているか確認してください。			
メッセージ番号	E00013	メッセージ種別	ERROR
メッセージ			
ERROR : cannot get Sequence Number			
システムの処置			
処理を中止します。			
利用者の処置			
本メッセージの前後に出力された“利用者の処置”に従って対処してください。			
メッセージ番号	E00014	メッセージ種別	ERROR
メッセージ			
ERROR : cannot get File length			
システムの処置			
処理を中止します。			
利用者の処置			
本メッセージの前後に出力された“利用者の処置”に従って対処してください。			
メッセージ番号	E00015	メッセージ種別	ERROR
メッセージ			
ERROR : cannot move from snd to sndwork			
システムの処置			
処理を中止します。			
利用者の処置			
送信ファイル格納ディレクトリ(snd,sndwork)が存在しているか確認してください。			

メッセージ番号	E00016	メッセージ種別	ERROR
メッセージ			
ERROR : Sequence Number cannot update			
システムの処置			
処理を中止します。			
利用者の処置			
環境ファイル格納ディレクトリ(etc)にシーケンス番号ファイル(PmartClient.seq)が存在しているか確認してください。			
メッセージ番号	E00017	メッセージ種別	ERROR
メッセージ			
ERROR : cannot move from sndwork to sndback			
システムの処置			
処理を中止します。			
利用者の処置			
送信ファイル格納ディレクトリ(snd,sndwork)が存在しているか確認してください。			
メッセージ番号	E00018	メッセージ種別	ERROR
メッセージ			
ERROR : Sequence Number is advance			
システムの処置			
処理を中止します。			
利用者の処置			
環境ファイル格納ディレクトリ(etc)にあるシーケンス番号ファイル(PmartClient.seq)のシーケンス番号が、本メッセージの前に出力された“(サーバ側シーケンス番号)-1”の値となっているか確認してください。			
メッセージ番号	E00019	メッセージ種別	ERROR
メッセージ			
ERROR : Sequence Number error			
システムの処置			
処理を中止します。			
利用者の処置			
環境ファイル格納ディレクトリ(etc)にあるシーケンス番号ファイル(PmartClient.seq)のシーケンス番号が、本メッセージの前に出力された“(サーバ側シーケンス番号)-1”の値となっているか確認してください。			

メッセージ番号	E00020	メッセージ種別	ERROR
メッセージ			
ERROR : file cannot read			
システムの処置			
処理を中止します。			
利用者の処置			
本メッセージの前後に出力された“利用者の処置”に従って対処してください。			
メッセージ番号	E00021	メッセージ種別	ERROR
メッセージ			
ERROR : Send process error			
システムの処置			
処理を中止します。			
利用者の処置			
本メッセージの前後に出力された“利用者の処置”に従って対処してください。			
メッセージ番号	E00022	メッセージ種別	ERROR
メッセージ			
ERROR : Sequence Number is late			
システムの処置			
処理を中止します。			
利用者の処置			
前回受信分を再受信手順(rcm)にて受信してください。			
メッセージ番号	E00023	メッセージ種別	ERROR
メッセージ			
ERROR : Server's Sequence Number is XXXXXXXXXXXX			
システムの処置			
処理を中止します。			
利用者の処置			
表示されたサーバ側シーケンス番号を確認し、本メッセージの後に出力された“利用者の処置”に従って対処してください。			
メッセージ番号	E00024	メッセージ種別	ERROR
メッセージ			
ERROR : Receive process error			
システムの処置			
処理を中止します。			
利用者の処置			
本メッセージの前後に出力された“利用者の処置”に従って対処してください。			

メッセージ番号	E00025	メッセージ種別	ERROR
メッセージ			
ERROR : Receive Complete process error			
システムの処置			
処理を中止します。			
利用者の処置			
本メッセージの前後に出力された“利用者の処置”に従って対処してください。			
メッセージ番号	E00026	メッセージ種別	ERROR
メッセージ			
ERROR : Re-Receive process error			
システムの処置			
処理を中止します。			
利用者の処置			
本メッセージの前後に出力された“利用者の処置”に従って対処してください。			
メッセージ番号	E00027	メッセージ種別	ERROR
メッセージ			
ERROR : MD5 value cannot get			
システムの処置			
処理を中止します。			
利用者の処置			
通信環境を確認して下さい。本メッセージが繰り返し表示される場合技術員に調査を依頼して下さい			
メッセージ番号	E00028	メッセージ種別	ERROR
メッセージ			
ERROR : MD5 digest process error			
システムの処置			
処理を中止します。			
利用者の処置			
通信環境を確認して下さい。本メッセージが繰り返し表示される場合技術員に調査を依頼して下さい			

メッセージ番号	E00029	メッセージ種別	ERROR
メッセージ			
ERROR : socket timeout			
システムの処置			
処理を中止します。			
利用者の処置			
「9 章 サーバステータス一覧」のステータスと一致する“クライアントの処置”の記述に従って対処してください。			
メッセージ番号	E00030	メッセージ種別	ERROR
メッセージ			
ERROR : retry err			
システムの処置			
処理を中止します。			
利用者の処置			
「9 章 サーバステータス一覧」のステータスと一致する“クライアントの処置”の記述に従って対処してください。			
メッセージ番号	E00031	メッセージ種別	ERROR
メッセージ			
ERROR : retry over			
システムの処置			
処理を中止します。			
利用者の処置			
「9 章 サーバステータス一覧」のステータスと一致する“クライアントの処置”の記述に従って対処してください。			
メッセージ番号	E00032	メッセージ種別	ERROR
メッセージ			
ERROR : Log classification error			
システムの処置			
処理を中止します。			
利用者の処置			
指定したログ種別を確認してください。			

メッセージ番号	E00033	メッセージ種別	ERROR
メッセージ			
ERROR : Date error (The number of the characters is not 10.)			
システムの処置			
処理を中止します。			
利用者の処置			
指定した日付の文字数が 10 文字であるか確認してください。			
メッセージ番号	E00034	メッセージ種別	ERROR
メッセージ			
ERROR : Date error (Stop character is not “-“.)			
システムの処置			
処理を中止します。			
利用者の処置			
指定した日付の区切り文字が “-” (ハイフン)であるか確認してください。			
メッセージ番号	E00035	メッセージ種別	ERROR
メッセージ			
ERROR : Date error (The year is not exist.)			
システムの処置			
処理を中止します。			
利用者の処置			
指定した日付の西暦を確認してください。			
メッセージ番号	E00036	メッセージ種別	ERROR
メッセージ			
ERROR : Date error (The month is not exist.)			
システムの処置			
処理を中止します。			
利用者の処置			
指定した日付の月を確認してください。			
メッセージ番号	E00037	メッセージ種別	ERROR
メッセージ			
ERROR : Date error (The day is not exist.)			
システムの処置			
処理を中止します。			
利用者の処置			
指定した日付の日を確認してください。			

メッセージ番号	E00038	メッセージ種別	ERROR
メッセージ			
ERROR : file cannot write			
システムの処置			
処理を中止します。			
利用者の処置			
ファイルに書きこみ権があるか確認してください。			
メッセージ番号	E00039	メッセージ種別	ERROR
メッセージ			
ERROR : cannot change code			
システムの処置			
処理を中止します。			
利用者の処置			
環境設定ファイルの DATATYPE に指定した値を確認してください。本メッセージが繰り返し表示される場合は技術員に調査を依頼してください。			
メッセージ番号	E00040	メッセージ種別	ERROR
メッセージ			
E00040:ERROR: cannot rename			
システムの処置			
処理を中止します。			
利用者の処置			
本メッセージが繰り返し表示される場合は技術員に調査を依頼してください。			
メッセージ番号	E00041	メッセージ種別	ERROR
メッセージ			
E00041:ERROR: DATATYPE(in config file) is wrong. DATATYPE is "0" or "1".			
システムの処置			
処理を中止します。			
利用者の処置			
環境設定ファイルの DATATYPE に指定した値を確認してください。本メッセージが繰り返し表示される場合は技術員に調査を依頼してください。			

8. サーバステータス一覧

HTTP サーバからの受信/送信/再受信処理別の返却ステータス一覧を示します。

8.1 送信

ステータス	200(OK)	処理工程	シーケンス番号取得
意味	正常		
クライアントの処置	処理を続行します。		
備考	HTTP サーバから取得したシーケンス番号が期待どおり (クライアント側シーケンス番号+1) の場合。		
ステータス	200(OK)	処理工程	シーケンス番号取得
意味	前回実行分の再送中止		
クライアントの処置	前回の送信処理を「成功」へ変更し、送信処理を中止します。		
備考	HTTP サーバから取得したシーケンス番号が遅れている場合。		
ステータス	200(OK)	処理工程	シーケンス番号取得
意味	システム異常		
クライアントの処置	処理を中止します。(要求電文の文法を確認します)		
備考	HTTP サーバから取得したシーケンス番号が進んでいる場合。		
ステータス	400(Bad Request)	処理工程	シーケンス番号取得
意味	要求電文無効		
クライアントの処置	処理を中止します。(要求電文の文法を確認します)		
備考	要求電文の文法に誤りがある。(メソッド, パラメータ, 桁数の誤りなど)		

ステータス	401(Unauthorized)	処理工程	シーケンス番号取得
意味	認証エラー		
クライアントの処置	処理を中止します。(認証 ID, パスワード、処理手順を確認します)		
備考	<p>認証 ID, パスワードに誤りがある。 (前回の) 別セッションが存在する。 処理手順に誤りがある。</p>		
ステータス	404(Not Found)	処理工程	シーケンス番号取得
意味	要求異常		
クライアントの処置	処理を中止します。(URI, 認証 ID, ファイル識別名を確認します)		
備考	<p>指定した URI が存在しない。 指定した認証 ID, ファイル識別名が登録されていない。 (文法的には正しいが該当するデータがない)</p>		
ステータス	500(Internal Server Error)	処理工程	シーケンス番号取得
意味	サーバエラー		
クライアントの処置	処理を中止します。(技術員に調査を依頼します)		
備考	サーバ内部でエラーが発生した場合。		
ステータス	201(Created)	処理工程	送信
意味	正常		
クライアントの処置	処理を続行します。		
備考			

ステータス	400(Bad Request)	処理工程	送信
意味	要求電文無効		
クライアントの処置	処理を中止します。(要求電文の文法を確認します)		
備考	要求電文の文法に誤りがある。(メソッド, パラメータ, 桁数などの誤り)		
ステータス	401(Unauthorized)	処理工程	送信
意味	セッションエラー		
クライアントの処置	処理を中止します。(セッション ID, 処理手順を確認します)		
備考	セッション ID に誤りがある。処理手順に誤りがある。		
ステータス	404(Not Found)	処理工程	送信
意味	要求異常。データなし。		
クライアントの処置	処理を中止します。(URI, 認証 ID, ファイル識別名, シーケンス番号を確認します)		
備考	指定した URI が存在しない。 指定した認証 ID, ファイル識別名が登録されていない。 指定したシーケンス番号に誤りがある。		
ステータス	408(Request Timeout)	処理工程	送信
意味	セッションタイムアウト		
クライアントの処置	処理を中止します。(最初 [シーケンス番号獲得] から送信処理を行います)		
備考	セッションタイムアウト後に要求を行った場合。		
ステータス	500(Internal Server Error)	処理工程	送信
意味	サーバーエラー		
クライアントの処置	処理を中止します。(技術員に調査を依頼します)		
備考	サーバ内部でエラーが発生した場合。		

8.2 受信

ステータス	302(Moved Temporary)	処理工程	シーケンス番号取得
意味			
正常			
クライアントの処置			
処理を続行します。			
備考			
HTTP サーバから取得したシーケンス番号が期待どおり (クライアントシーケンス番号+1) の場合。			
ステータス	302(Moved Temporary)	処理工程	シーケンス番号取得
意味			
前回実行分の再送中止			
クライアントの処置			
前回の受信処理を「成功」へ変更し、受信処理を中止します。 受信データは、再受信手順により受信します。			
備考			
HTTP サーバから取得したシーケンス番号が遅れている場合。			
ステータス	302(Moved Temporary)	処理工程	シーケンス番号取得
意味			
システム異常			
クライアントの処置			
処理を中止します。(要求電文の文法を確認します)			
備考			
HTTP サーバから取得したシーケンス番号が進んでいる場合。			
ステータス	400(Bad Request)	処理工程	シーケンス番号取得
意味			
要求電文無効			
クライアントの処置			
処理を中止します。(要求電文の文法を確認します)			
備考			
要求電文の文法に誤りがある。(メソッド, パラメータ, 桁数の誤りなど)			

ステータス	401(Unauthorized)	処理工程	シーケンス番号取得
意味			
認証エラー			
クライアントの処置			
処理を中止します。(認証 ID, パスワード, 処理手順を確認します)			
備考			
認証 ID, パスワードに誤りがある。 (前回の) 別セッションが存在する。 処理手順に誤りがある。			
ステータス	404(Not Found)	処理工程	シーケンス番号取得
意味			
要求異常			
クライアントの処置			
処理を中止します。(URI, 認証 ID, ファイル識別名を確認します)			
備考			
指定した URI が存在しない。 指定した認証 ID, ファイル識別名が登録されていない。			
ステータス	500(Internal Server Error)	処理工程	シーケンス番号取得
意味			
サーバエラー			
クライアントの処置			
処理を中止します。(技術員に調査を依頼します)			
備考			
サーバ内部でエラーが発生した場合。			
ステータス	200(OK)	処理工程	受信
意味			
正常			
クライアントの処置			
処理を続行します。			
備考			

ステータス	400(Bad Request)	処理工程	受信
意味			
要求電文無効			
クライアントの処置			
処理を中止します。(要求電文の文法を確認します)			
備考			
要求電文の文法に誤りがある。(メソッド, パラメータ, 桁数などの誤り)			
ステータス	401(Unauthorized)	処理工程	受信
意味			
セッションエラー			
クライアントの処置			
処理を中止します。(セッション ID, 処理手順を確認します)			
備考			
セッション ID に誤りがある。処理手順に誤りがある。			
ステータス	404(Not Found)	処理工程	受信
意味			
要求異常。データなし。			
クライアントの処置			
処理を中止します。(URI, 認証 ID, ファイル識別名, シーケンス番号を確認します)			
備考			
指定した URI が存在しない。 指定した認証 ID, ファイル識別名が登録されていない。 指定したシーケンス番号に誤りがある。			
ステータス	408(Request Timeout)	処理工程	受信
意味			
セッションタイムアウト			
クライアントの処置			
処理を中止します。(最初 [シーケンス番号獲得] から受信処理を行います)			
備考			
セッションタイムアウト後に要求を行った場合。			
ステータス	500(Internal Server Error)	処理工程	受信
意味			
サーバーエラー			
クライアントの処置			
処理を中止します。(技術員に調査を依頼します)			
備考			
サーバ内部でエラーが発生した場合。			

ステータス	200(OK)	処理工程	受信済み
意味	正常		
クライアントの処置	処理を続行します。		
備考			
ステータス	400(Bad Request)	処理工程	受信済み
意味	要求電文無効		
クライアントの処置	処理を中止します。(要求電文の文法を確認します)		
備考	要求電文の文法に誤りがある。(メソッド, パラメータ, 桁数などの誤り)		
ステータス	401(Unauthorized)	処理工程	受信済み
意味	セッションエラー		
クライアントの処置	処理を中止します。(セッション ID, 処理手順を確認します)		
備考	セッション ID に誤りがある。処理手順に誤りがある。		
ステータス	404(Not Found)	処理工程	受信済み
意味	要求異常。データなし。		
クライアントの処置	処理を中止します。(URI, 認証 ID, ファイル識別名, シーケンス番号を確認します)		
備考	指定した URI が存在しない。 指定した認証 ID, ファイル識別名が登録されていない。 指定したシーケンス番号に誤りがある。		
ステータス	408(Request Timeout)	処理工程	受信済み
意味	セッションタイムアウト		
クライアントの処置	処理を中止します。(最初 [シーケンス番号獲得] から受信処理を行います)		
備考	セッションタイムアウト後に要求を行った場合。		

ステータス	500(Internal Server Error)	処理工程	受信済み
意味	サーバーエラー		
クライアントの処置	処理を中止します。(技術員に調査を依頼します)		
備考	サーバ内部でエラーが発生した場合。		

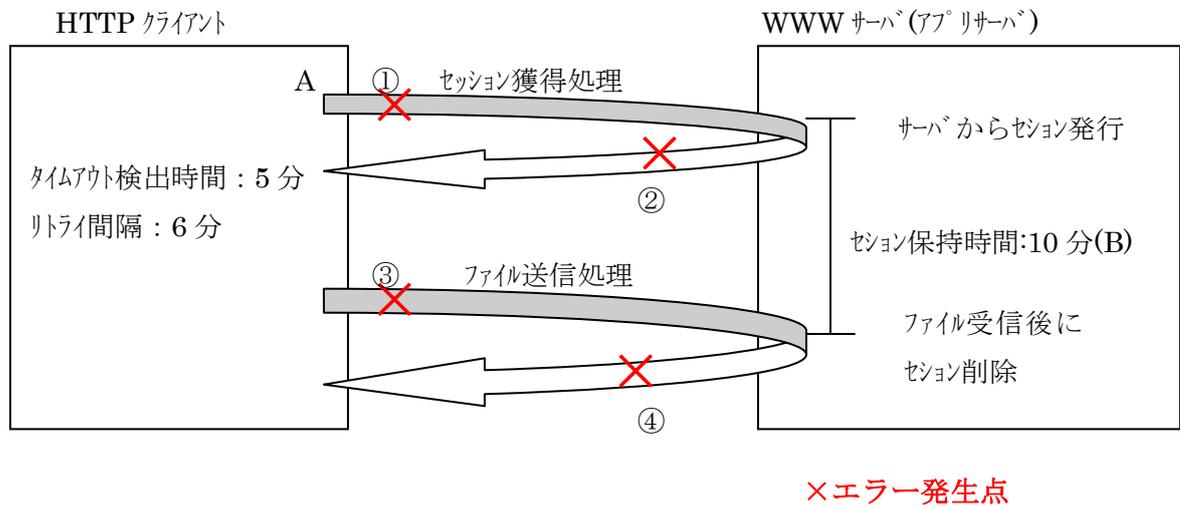
8.3 再受信

ステータス	302(Moved Temporary)	処理工程	再受信
意味	正常		
クライアントの処置	処理を続行します。		
備考			
ステータス	400(Bad Request)	処理工程	再受信
意味	要求電文無効		
クライアントの処置	処理を中止します。(要求電文の文法を確認します)		
備考	要求電文の文法に誤りがある。(メソッド, パラメータ, 桁数などの誤り)		
ステータス	401(Unauthorized)	処理工程	再受信
意味	認証エラー		
クライアントの処置	処理を中止します。(認証 ID, パスワードを確認します)		
備考	認証 ID, パスワードに誤りがある場合。		

ステータス	404(Not Found)	処理工程	再受信
意味	要求異常。データなし。		
クライアントの処置	処理を中止します。(URI、認証 ID、ファイル識別名、シーケンス番号、期限切れ日時を確認します)		
備考	指定した URI が存在しない。 指定した認証 ID、ファイル識別名が登録されていない。 指定したシーケンス番号に誤りがある。 指定したシーケンス番号のデータは期限切れである。		
ステータス	500(Internal Server Error)	処理工程	再受信
意味	サーバーエラー		
クライアントの処置	処理を中止します。(技術員に調査を依頼します)		
備考	サーバ内部でエラーが発生した場合。		

付録 HTTP ファイル転送におけるタイムアウト/リトライ時間設定

クライアントのタイムアウト、リトライ間隔設定時間について、ファイル送信処理を例に説明します。



×エラー発生点

HTTP client プログラムでは、エラーが発生（タイムアウトや通信エラー）した場合、リトライ処理はエラーとなった地点(①②③④)からではなく、必ずプログラムの始めの (A 点) からリトライ処理が行われます。

サーバ側のセッション保持時間は 10 分固定(B)となっているため、クライアント側のリトライ間隔とタイムアウト検出時間の合計は、サーバ側セッション保持時間(10 分)より必ず大きい値を設定する必要があります。

リトライ間隔とタイムアウト検出時間の合計が 10 分以下の場合、サーバステータスとして、"401(Unauthorized)"のエラー（サーバ側にセッションがまだ存在する）となります。